



# コロナ禍という非常時に 多摩市政は？

## ——決算審査の重要性

### 初めてのコロナ禍 昨年の議論では

終わりの見えないコロナ災害。昨年度は、非常時対応として多摩市議会は決算審査を行いませんでした。

決算審査は、理念や意見の違いを越えて議会全体の統一された評価を示すものです。市長はその結果を予算に反映させなければならない、と議会基本条例に定められています。

それだけに責任は重く、毎年6月議会後から各分科会が所管に詳しくヒアリングし、調査と審議を重ねて9月議会で正式に決定します。

未知の感染症対策で多忙を極める行政への配慮、更には感染防止の意義から、昨年は分科会による審査を中止すると判断しました。

### 今年の審査はコロナ一択で

コロナ禍に対応するため、昨年度は10回もの補正予算が組まれました。非常時にどのような事業を組み、どのように予算を執行したかという検証は、今後の危機対応を考える意味でもたいへん重要です。

そこで今年は、昨年度の「コロナ禍に対応するための事業・施策」に限定した決算審査を行うことに決めました。長期化する市民の混乱と困窮、そして未来の新たな非常時対策を考えるうえで、いま検証を行うことには大きな意義があると思います。



多摩市議会議員（社民党）  
いぢち恭子

※6月23日『沖縄慰霊の日 池袋街宣』にて

### 《決算審査とは》

多摩市議会は「議会基本条例」第9条において、「決算と予算の連動」という観点に立ち**決算審査を行うこと**を規定しています。具体的には、分科会（4つの常任委員会が移行）ごとに審査の結果をまとめ、議会の総意としての評価を行政に伝えます。

これには2つの目的があります。

① 市議会全体の評価を示すことで、行政の受け止めを確実なものとする。

② 審査結果を必ず予算編成に反映させる。

決算委員会をただ「言いつばなし」の場にせず、**予算 = 次の税金の使い方**に市民の意見を反映させるための取り組みです。



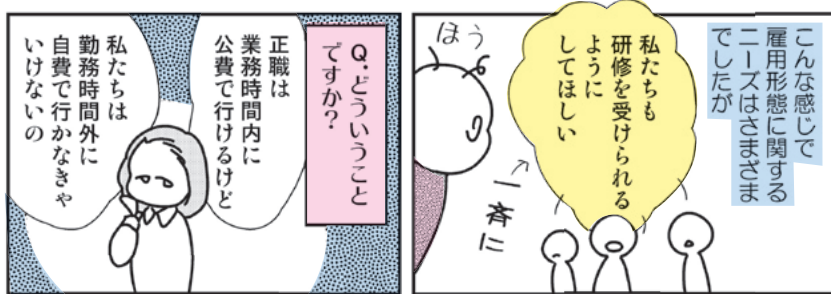
市民の代表として  
責任を果たすため  
最善の方法を  
模索し続けようと  
思います

次  
の  
議  
会  
は  
本  
当  
に  
開  
け  
る  
か  
今  
の  
時  
点  
で  
は  
何  
も  
お  
約  
束  
で  
き  
ま  
せ  
ん  
が

感  
染  
者  
数  
が  
過  
去  
最  
高  
を  
更  
新  
し  
今  
年  
の  
夏  
も  
先  
ゆ  
き  
は  
全  
く  
見  
え  
ま  
せ  
ん

3月議会に続いて今回も「非正規公務員」に焦点をあてて質問しました。

「公助」の分野で増え続ける「正規職でない人たち」。この現状に問題はないのでしょうか。



まず多摩市から、非正規公務員の働き方改革を当事者目線で行うことが、市にも市民にもプラスの結果をもたらすはずで。

### “多様な働き方”の内側

非正規の働き方について言及するとき、あたかも「働き手の自由選択」のような言い方をされることがあります。

しかし現実として、正規のイスはあらかじめ数が限られており、多くの非正規労働者が「仕方なく」働き方を選ばされていることは、各種アンケートから容易に読み取れます。

賃金や福利厚生以外でも、左のマンガに描いたような《差別》は至るところにあります。非正規労働者は立場が弱く、職場で理不尽な扱いを受けてもなかなか声を上げることができないのが実情です。

### 《官》からまず改善すべき

不安定な非正規雇用の問題に官民の差はありませんが、公務員の処遇水準は民間に大きな影響を及ぼします。そして、私たち市民のための公共サービスをになう人材の多くが、ゆとりの少ない働き方に苦慮しているという現実、このまま放置してはいけなくと思います。



### 女性であることはハンデなのか

非正規雇用の問題で避けて通れないのが、女性のこと。男女差別は昔の話、とはとても言えない現実が社会に重くのしかかっています。

⇒右ページへ続く





「タンバリン通信」もぜひ読んでください！



マンガで触れた職種以外で女性の割合が高いのが、図書館司書と相談員です。特に後者は行政の複雑化するニーズに応える形で、さまざまな分野で増加していますが、どちらもやはり大部分が非正規です。

「女性なら、人のためになる仕事を無償でやるべきだ」という極論がいまだに聞かれるくらい、女性の置かれた労働環境は旧態のままです。そうした現実が、非正規率という数値に具体的に表れていると考えるべきでしょう。



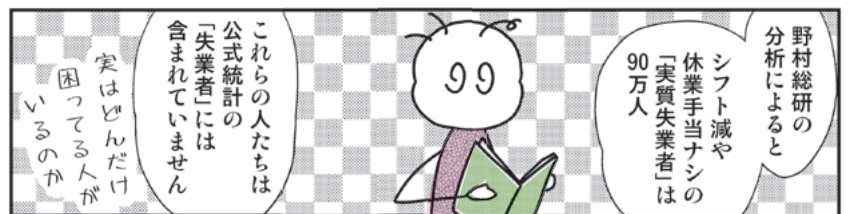
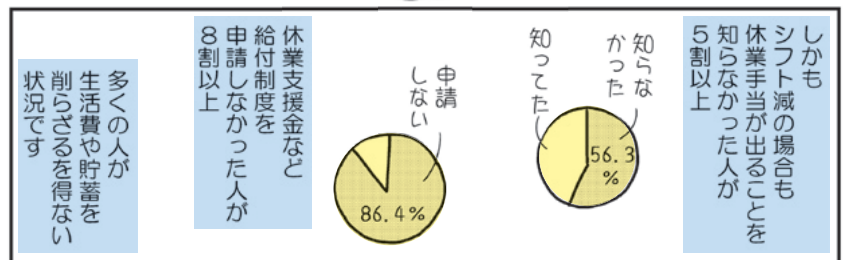
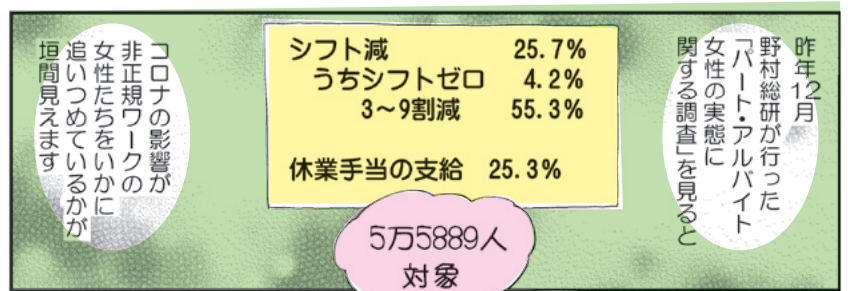
### そして「コロナ」の一撃が

生活保護に関する市民相談が後を絶ちませんが、「コロナ後」の特徴のひとつは現役世代の相談が増えたことです。私が受けたものの中でも、「バイトのシフトを減らされた（ゼロにされた）」という訴えをいくつも聞きました。

野村総研の調査結果からは、そうした女性たちに公的支援がうまく届いていないことも読み取れます。自治体は、こうしたデータを真摯に受け止めて施策を組み立てる必要があります。

女性の困窮のみを問題視しているのではありません。私たちの社会にさまざまな格差や歪みがあるということ、なかなか声を上げられず苦しんでいる人がいるということ、これらの現実に向き合うのが非常に重要です。

自治体のレベルでやれることには、限界があるかもしれません。しかし、市民に最も近い公共団体こそ問題を掘り下げ、解決の道を探らなくてはならないのではないのでしょうか。



◆ 感染拡大への懸念

3月議会終盤に以下の陳情が提出され、閉会中審査を経て7月臨時会で採択されました。

東京2020オリンピック・パラリンピック大会の  
多摩市事業で予測される  
新型コロナウイルス  
感染症感染拡大防止に関する陳情

「感染拡大のリスクを見直し、最善の拡大防止対策を取ってほしい」という主旨に対し、私たちの会派は文句なしで採択としました。本会議では「趣旨採択」の会派もあり、全会一致とはなりませんでした。意見の相違があるのは当然なのでそれ自体に異議はありません（残念ではありますが）。

◆ 子どもの夢やあこがれを阻むものは

しかし気になったのは、この陳情をあたかも児童の観戦を禁止するものであるかの如く、「観戦させないのは子どもが可哀想」という声が複数上がったことです。

子どもが一流選手のパフォーマンスに接する機会を阻むものは何でしょうか。コロナ禍という自然災害に対し、これまで政府は適切な対処ができたでしょうか。五輪中止を望む国民の数と、内閣支持率の低下がその答えです。

子どもに観戦させたいなら、それが可能な環境を大人が準備しなくてはなりません。そうして初めて、子どもたちに「安心して観戦においで」と言えるのではないのでしょうか。

いぢち恭子は、多摩・生活者ネットワークの  
岩崎みなこ、岸田めぐみと3名で、  
会派「ネット・社民の会」を結成しています。



コロナ対策で、市の状況や対応は刻々と変わる可能性があります。市HPなどもご確認の上、質問や相談がありましたら右記までお願いします。

★市HP上部「各課の窓口」からメール送信も可能です。もちろん、私いぢち恭子をはじめ（連絡先は本ページの右下参照）、各議員にも遠慮なくお問い合わせください！



多摩市の新型コロナほか  
暮らしのご相談  
はこちらへ！

多摩市役所(代表)  
☎042-375-8111  
(月～金 8:30～17:00)

多摩市の新型コロナでの  
感染のご相談  
はこちらへ！

多摩市新型コロナウイルス  
コールセンター  
☎042-400-1612  
(月～金 9:00～17:00)  
FAX:042-400-1370

★土日祝は、都相談窓口 0570-550571 へ！

いぢち恭子の  
プロフィール



- ・1962年生まれのO型おひつじ座
- ・1976年から多摩市落合在住
- ・市立豊ヶ丘中学、都立永山高校卒業
- ・和光大学入学後、現代舞踊&整体による身体表現研究に転進
- ・2015年、多摩市議会議員選挙に初当選
- ・2019年、再選(現在2期目)
- ◆総務常任委員 ◆議会だより編集委員
- ◆多摩市土地開発公社 評議員

街頭ではコミック・レポート『タンバリン通信』をお配りしています。タンバリン通信バックナンバー掲載中!



公式ブログ『キョーコ式ランドスケープ』  
<http://kyokolandscape.blog.fc2.com/>



いぢち恭子公式ホームページ  
<https://www.ijichi-kyoko.net>

お困りごとがありましたら、お気軽に下記へご相談ください。



発行・連絡先  
いぢち恭子とまちづくりの会事務局  
〒206-0033 多摩市落合 3-1-3-103  
TEL&FAX / 042-376-4886  
TEL&FAX(自宅) 042-400-6264  
E-mail / ipanema\_red@yahoo.co.jp

